

# 群馬県地域リハビリテーション支援センター

## ニュースレター 40号

2023. 3.13

### 群馬県の地域リハビリテーション推進体制 (その1: 地域リハビリテーションと地域リハビリテーション支援体制整備事業)

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

最近、地域リハビリテーション推進体制について周知が必要であることが提起されております。このことから、ニュースレター38号にて、「地域リハビリテーション広域支援センターの役割と「地域リハ支援施設」の協力について」を掲載しました。現在の課題の一つを取り上げたため、初めて地域リハビリテーションに関わる方や医療・介護現場等の新人の方には、わかりにくいものとなっております。そこで、その背景を含めて数回に分けて掲載することになりました。

【地域リハビリテーション】地域リハビリテーションとは、障がいのある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてをいいます(日本リハビリテーション病院・施設協会, 2016年)。

【地域リハビリテーション支援体制の変遷】平成11(1999)年、介護保険制度の安定的運用と市町村支援の目的に開始された「地域リハビリテーション支援体制整備推進事業(厚生省モデル事業)」は、41のほとんどの都道府県で実施され、278の地域リハビリテーション広域支援センターが設置され、全国的な活動になりました。平成17(2005)年の全国調査では、限られた予算とマンパワーにも拘わらず、圏域内の市町村・事業所に対して研修会や技術支援が積極的に行われていました。主な事業内容としては、以下の3点でした。

#### (1)都道府県リハビリテーション協議会

役割: 都道府県および地域におけるリハビリテーション連携指針の作成、都道府県リハビリテーション支援センター・地域リハビリテーション広域支援センターの指定に係る調整・協議

#### (2)都道府県リハビリテーション支援センター

役割: 地域リハビリテーション広域支援センターへの支援、リハビリテーション資源の調査・研究、関連団体との連絡・調整

#### (3)地域リハビリテーション広域支援センター

役割: 地域におけるリハビリテーション実施機関の支援、リハビリテーション施設の共同利用、地域におけるリハビリテーション実施施設の従事者に対する援助・研修、地域における関係団体、患者の会、家族の会等からなる連絡協議会の設置・運営

平成11(1999)年から平成18(2006)年まで取り組まれていた「地域リハビリテーション支援体制整備推進事業」の果たしてきた役割は大きかったものの、国のモデル事業の終了後は、都道府県事業として継続した県と終了した県に分かれてしまいました。最終的にこの事業を継続した都道府県は半数程度で、群馬県は継続した都道府県の一つです。事業継続が半数となったことから、地域リハビリテーション活動が全国的に展開されることが困難な状況となっていました。そのような中で、平成24(2012)年以降、地域包括ケアの必要性が提言されたことに端を発して、全国的にリハビリテーション待望論が持ち上がり、結果的に地域リハビリテーション活動が求められるようになってきました。その活動の実践は都道府県や市町村に任されていたため、平成25(2013)年に一般介護予防事業の一つとして、新しい総合事業の中の介護予防機能を強化するためにリハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する事業として「地域リハビリテーション活動支援事業」が打ち出されました。地域リハビリテーション支援体制整備事業を継続した都道府県は、「地域リハビリテーション活動支援事業」推進に、地域リハビリテーション支援体制を利用するに至っています。中には「地域リハビリテーション支援体制」を復活させた県もあります。このようにリハビリテーション専門職が、地域のニーズに対応した活動、すなわち「自助・互

助・共助・公助」を具現化する活動が展開されるようになったわけではありますが、一方、多くの医療・介護関係者が理解できているわけではなく、その存在もあまり知られていない実状であり、現在にも繋がっていると考えられます。

今回は、地域リハビリテーション活動支援事業と上記の変遷を踏まえた群馬県の地域リハビリテーション推進体制を掲載します。

## 令和4年度地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山路雄彦

令和5年2月16日(木)17:00から遠隔(ZOOM)にて開催しました。情報交換会の目的は、各広域支援センターの日頃の諸活動についての実践や課題などを協議・検討することにあります。伊勢崎地域リハビリテーション広域支援センターの活動状況を報告して頂き、続いて群馬医療福祉大学の村山明彦講師より、「高齢者を通いの場へ導くヒント」をお話いただきました。この後、コロナ禍での工夫、地域リハ関連職への支援の実際、研修会の内容や講師選定、情報の周知・情報共有や協力、予算、ネットワークの構築、支援施設の拡充、広域支援センターの認知度を高める工夫などが情報共有されました。

### 第25回 群馬県地域リハビリテーション協議会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長  
山路雄彦

令和5年3月9日(木)18:30より遠隔(ZOOM)にて開催されました。群馬県健康福祉部健康長寿社会づくり推進課の神山智子課長から挨拶があり議事に入りました。(1)群馬県地域リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターにおける事業実施状況、(2)介護予防サポーターの養成状況、(3)令和4年度の群馬県の取り組み、(4)令和5年度介護予防事業・地域リハビリテーション関連予算について説明がありました。



### 令和4年度 群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会 定例会議

群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会  
副会長 山路雄彦

群馬県内の地域リハビリテーションに関連する団体の協議会であります「群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会」の定例会議が、令和5年2月18日(土)に遠隔(ZOOM)にて開催されました。この定例会議は、年1回、群馬県地域リハビリテーション支援センターの活動を報告するとともに、関連団体の皆様から運営上のご質問やご意見などを伺い、今後の群馬県地域リハビリテーション支援センターの運営に活かすためのものです。和田直樹会長のご挨拶の後、群馬県地域リハビリテーション支援センターの活動報告、群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会会計報告、意見交換、情報交換を行いました。

## 渋川地域リハビリテーション広域支援センター活動報告

渋川中央病院 井田慎子

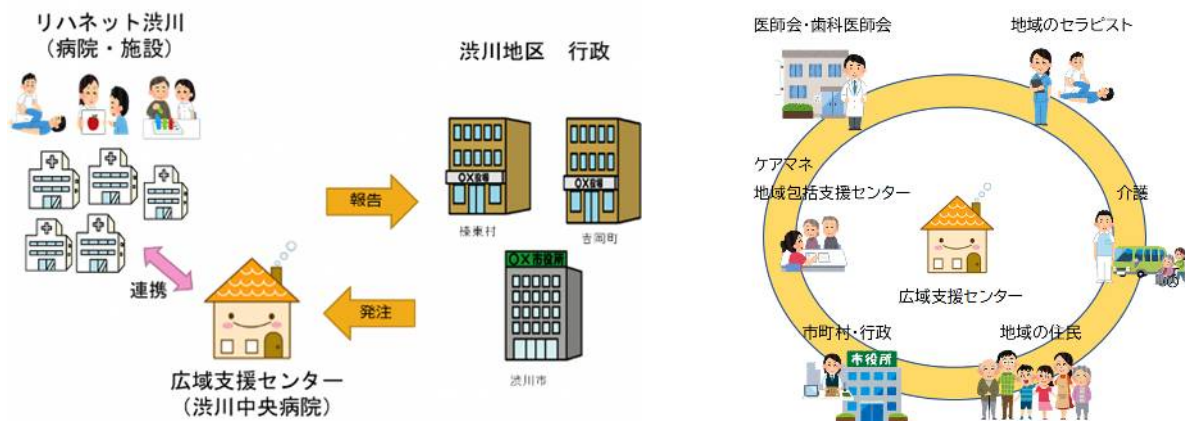
活動報告にタイトルをつけるとしたら【地域包括リハビリテーション支援センター】、まさに渋川地域にまるっと包んでいただいて、また支えていただいて活動を行っています。みなさんご存知の地域包括ケアシステムの図を思い浮かべていただくとわかりやすいかと思います。他の広域支援センターに比して小規模な当院で行えることには限りがあります。もともと医療のネットワークに強い渋川地域に参加させていただくことで、支援センター

の役割を担えていると思います。

当支援センターの活動報告で中心となるのが、平成 29(2017)年 6 月に設立された“リハネット渋川”の活動遂行に関することです。当支援センターが“リハネット渋川”を設立したと間違われることもありますので、経緯を簡単にご説明します。設立は渋川地区医療介護連携支援センター、目的はリハ専門職の連携のためです。地域包括ケアシステム構築の実現に向けて、リハ専門職の活動が含まれていることから、まず当支援センターへ声がかかりました。それまでの広域支援センター業務の行政とのかかわりに加え、医師会をはじめとする新たなかかわりができました。“リハネット渋川”と名前がついたことにより、地域包括ケアシステムにおけるリハ専門職の活動が見えてきたように思いました。そこで当支援センターは、“リハネット渋川”が活動できるように事務的な作業を行っています。

平成 30(2018)年、介護保険法の改正や見直しなどにより、介護予防事業でのリハ専門職の活動は大きく変化しました。平成 30 年度の約 120 名の派遣依頼から始まり、徐々に増え令和 4(2022)年度は 167 名の派遣となっています。年間スケジュールに基づき派遣の調整や振り分けを行っています。令和 4 年度は COVID-19 によるクラスターが繰り返され病院にとって苦難の年でした。そのような状況でしたが、感染対策を行いながら市町村の介護予防事業は計画の 8 割ほど実施することができました。病院所属のリハ専門職が、理学療法士 120 回、作業療法士 5 回、言語聴覚士 10 回派遣されました。毎年年度末には、介護予防事業にかかわる担当者の実務者会議を行っています。今年は 3 月 7 日に 3 年ぶりに行政職員とリハ専門職が顔を合わせ、今年度の振り返りと来年度の計画について意見交換を行いました。安全に配慮した介護予防事業へ向けて動き始めました。

活発な介護予防事業に比べて、渋川地域リハビリテーション広域支援センターの業務として行っている実地指導や相談業務は、COVID-19 の影響も受け減少傾向でした。今まで活発に行われていた講演会や会議などで顔を合わせる機会も減っていることもあり、情報交換も行いづらくなっているのが現状です。先述したとおり、当支援センターが単独で行える事業はまだ少なく、地域に向けて十分な発信が行えていません。「千里の道も一歩から」との思いで地域活動への共催、運営協力など出来ることを積み重ねてきました。そのなかで考えたことは「かかりつけリハ専門職」になることです。地域リハビリテーションの推進のため、これからも小回りの利く燃費の良い小型車のように渋川地区を走りまわっていきます。(どちらも図はイメージです)



## 第 20 回群馬地域リハ研究会 感想

公立富岡総合病院 理学療法士 渡辺真樹

今回、日本理学療法士協会常務理事である佐々木嘉光先生に、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について」と題してご講演いただきました。

講演の中で冒頭に、予防は働き盛りから取り組む事、そして再発予防も重要だとのお話がありました。私自身、この 2 年間は介護予防事業に従事していませんが、それ以前は地域で積極的に関わりを持たせて頂いて

おり、全く同じ事を感じていたのを思い出しました。高齢者は生活習慣病等を複数患っている、いわゆる多疾患併存の方も多く、これらに対応する取り組みと一体となって早期から介入する必要があるのではないかとことです。また、健康状態によっては手術が不可能で、1回の転倒で車椅子生活(または寝たきり)が確定してしまう方も多く見てきました。万が一転倒骨折しても、手術とリハビリで生活を再建するため、かつ再発予防として、保健事業との一体的な取り組みは、改めて重要だと感じました。

予防は、人生の全てのステージで存在するとのお話もありました。学童期の障害予防が運動の楽しさや継続につながり、運動の継続が成人期の生活習慣病予防やメンタルヘルスの維持、そして高齢期の介護予防につながるのだと思います。高齢者に限らず、全ての世代で保健と予防の一体的な取り組みが必要なのだと感じました。

中央省庁では、「地域リハビリの勢いが落ちているのではないかと」の声が上がっているようです。COVID-19感染拡大の影響も確かなことかと思えます。しかし、健康寿命の延伸や働き続けられる社会の構築には、行政と専門職が連携しての一体的な取り組みは不可欠な取り組みだと感じます。地域によって取り組み状況は様々とは思いますが、自分たちにできることをしっかりアピールしていきたいと思えます。

高崎健康福祉大学訪問看護ステーション 言語聴覚士 高橋典子

平成 25 年の通知以降、介護予防など障害のない者に対する診療の補助に該当しない範囲の業務には医師に指示が不要となり、ある程度の職域の拡大が可能となりましたが、昨今、高齢者の介護予防のみならず、全世代にむけた公衆衛生への関与の重要性が上がっています。2040 年を展望した時、高齢者就労が伸び働き続ける社会の到来、その中で、転倒・骨折を含む労災の発生率が上がること、特に女性の受傷率が上がるというお話は、来る 17 年後のわが身に当てはめた時他人事ではない身につまされる現実を見た気がします。

更に、就労世代の労働に関わる腰痛予防にリハ専門職として関われる法律がない等、先進国に後れを取っているというお話は、予防が何も高齢者に限ったことではないのだという新しい視点を頂きました。高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施を行う上では、フレイル予防を軸に、どのような対象者にどのような健康づくりに向かうのか、システムの構築や地域を担当する医療専門職の配置を進める必要があります。PT/OT/ST がそこにしっかり参入できる事が必要なのだという思いが伝わりました。

私は ST ですが、ST の人数は少ないだけでなく土会や協会に入らない有資格者が相当数いてどこに誰がいるかわからない現状が課題となっています。地域に配置される専門職が少ない現状はPTの中にもあるとのお話がありました。ましてやSTはどこにいるやら…の現状でどう存在価値を主張していけばいいか悩んでしまいます。

講義では地域包括支援センターにリハ職を配置する提案もありました。他県の取り組みの紹介もある中では地区の事情ごとに切り口ややり方が異なること、地域の保険師さんがキーマンである事が分かりました。群馬県では、山路センター長率いる地域リハ支援センターが各市町村や施設との下地作りに尽力してくださっています。

これが正解、という形はないと思えますが出来る所から出来る形で地域リハの取り組みに今後多くのリハ専門職が参入していける形ができればいいと思えます。学びのあるご講演ありがとうございました。

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局便り  
(2022年12月～2023年3月)

- 12/23 ニュースレター39号発送
- 2/16 群馬県地域リハビリテーション広域支援センター情報交換会
- 2/18 令和4年度群馬県リハビリテーション関連団体連絡協議会定例会議
- 2/18 第20回群馬地域リハ研究会
- 3/9 第25回群馬県地域リハビリテーション協議会
- 3/13 ニュースレター40号発行

編集デスク

- 山路雄彦
- 山上徹也
- 角田祐子
- 発行
- 群馬県地域リハビリテーション支援センター
- 連絡先
- 群馬大学大学院保健学研究科内
- Tel/Fax:027-220-8966